

# JAAC だより

## 特別コラム：“東日本大震災から1ヶ月・・・”

— 『言葉の壁』に立ち向かわなければ・・・ —

3月11日（金）に東北地方を襲った巨大地震から1ヶ月が経ちました。日を追うごとに死者や行方不明者、安否不明者の数が少しずつ明らかになってきましたが、依然、正確な数を導き出すことはできていません。もう一つの不安要素である東京電力福島第一原子力発電所の話題も日本中を震撼させています。原発からの放射能漏れにおける懸念はもちろんのことですが、原発事故により住み慣れた故郷から強制的に避難・退去させられている多くの人々の心中を考えると、どのような励ましとお見舞いのことばをかければよいのかわかりません。とにかく、『お身体をお大事に・・・』としか言いようがありません。震災と原発事故という2つの大きな問題を抱える日本に、海外から多くの救援、支援、協力のための物資の提供と人員の派遣が行われ、彼らによる様々な活動が今なお行われています。しかしながら、彼らの惜しみない活動が行われているなかで、日本の対応の仕方には『言葉の壁』が歴然と存在していることを、あらためて実感させられた思いです。

震災後の3月13日に、UNOCHA（国連人道問題調整事務所）から派遣された災害マネジメントの専門家等からなる、即時適応チームとしてUNDAC（United Nations Disaster Assessment and Coordination：国連災害評価調整）チームの5名が日本に到着しました。その後、2名の日本人が加わり、被災地の状況の把握と被災の評価を行い、日本政府の対応や各国からの支援チームの活動状況などの情報を、国連の立場として全世界に向けて発信してきました。通常、国連から派遣されるUNDACチームは被災地に本部を設置して、被災地の現況の把握と評価に努めながら、各国から派遣された救援活動隊間の連絡、調整や救援活動受け入れにおける調整を行うのですが、今回はその本部を東京の渋谷にある国際協力機構（JICA）の研修施設内に置き、その主な役割を『情報の発信』としました。今回の震災では、被災した地域が広範囲に及ぶことや、被災地で英語による情報収集が難しいこと、よって、国の内外からの情報が集約されやすい東京に本部機能を置くことになったと言われています。

ここ約1ヶ月間を振り返ってみると、海外で報道されている日本の現状があまりにも事実からかけ離れているものが多いことに気づかされます。JAAC生が留学しているアメリカでは、被災地の現状や日本の状況がどのように報道されているのか、とても心配でなりません。ドイツのミュンヘン近郊に住む、私のドイツ人の友人からは電話とメールで、『大変なことになったな・・・。原発の放射能漏れで、影響の少ない関西や九州に非難しなくていいのか・・・？』とか、『食料や水が無いなら、ドイツから送るから・・・』と伝えてくるしまつです。カナダのビクトリアに住むカナダ人の友人からは、『しばらくアメリカに戻っていたらどうだ・・・？』などと言ってきました。皆が私と私の家族のことを心配してくれるのは有り難いことですが、正確な情報が海外に伝わっていないことへの心配が、いつしか私の心の中では大きな不安と不満になり、それは日本の政府やメディアが正しい情報を世界に発信できていないという不信に繋がるものでした。

海外の友人たちと連絡を取るなかで、彼らから指摘されたことは『日本の官公庁は多くの情報をホームページに載せているのだろうが、なぜ英語で情報を載せないのか？』というものでした。私も調べてみたのですが、確かに英語による情報は著しく乏しいのです。原発に関係している原子力安全・保安院が発信している英語の情報も遅れがちになっていて、とてもタイムリーな情報を発信しているとは思えません。かろうじて官邸にある国際発信機能によって日本の国情が伝えられていますが、それさえ十分であるとは思えません。

日本には優秀なその分野の専門家や研究員、有識者が大勢います。さらには、世界でも類をみないと言われている優秀な官僚がいます。それなのに、何故、英語による情報が即時に海外に伝えられないのでしょうか。英語という『言葉』を話題に持ち出すと、『英語の専門家は・・・』などという返答が返ってきます。今後、日本が取るべき対応は、海外に情報を発信する際に『専門家による分析と評価』を『英語の専門家』によって伝えるのではなく、少なくとも『通じる英語で情報を発信できる専門家』を育成することではないでしょうか。しかも、それは日本の急務ではないでしょうか。いったい、いつまで事あるごとに『通訳の人は・・・』などと言っているのか！！ （カリフォルニア事務局： 照井）

## 今年の就職内定率と今後の就職活動について

今年も4月1日付で新社会人が誕生しました。就職氷河期と言われるこの時代に、内定を取り付けた学生たちの入社式や、官公庁への入省式、入所式といった恒例の式典が日本全国で行われました。東日本大震災の影響を受けて、入社式などを行うことができなかった会社もありますし、また、震災後に内定を取り消された学生も多くいます。さらには、不幸にも震災によって会社そのものが消滅したり、営業ができなくなった会社もあります。そんな中で、今年新たに新社会人となった学生の内定率が明らかになりました。

厚生労働省による2010年度（2010年4月1日～2011年3月31日）大学等新卒者の就職内定状況に関する最新調査結果の発表によると、今年の2月1日（1月末）時点での大学新卒者の就職内定率は77.4%で、1999年度以降に毎年2月1日時点で計測された調査結果のうちで過去最低の値となりました。これは昨年と同時期時点の値よりも2.6ポイントのマイナスとなりました。この数字はあくまでも就職希望者に占める内定取得者の割合であり、今年の大学新卒者のうち、いわゆる就職浪人の道を選び、今年の就職を見送った学生の数は含まれていません。

今年の新卒者の志望就職業種をみると、例年と同様に商社が約30%、金融関係が約27%、食品関係は約23%という結果が出ています。また、依然、学生の大手志向が続いていますが、いわゆる大手と言われる上場企業からの内定率は全体の約8%と示されていることから、中堅・中小企業への志望業種変更の兆候も見られました。以前にもJAACだよりで取り上げましたが、求職側である学生と求人側である企業との間に起こるミスマッチなどにより、より内定を取り付けやすい中堅・中小企業への積極的な就職活動が学生の間でも浸透しつつあると思われます。2012年3月卒業見込み者（2011年度の新卒者であり、2011年に卒業した「就職浪人」は含みません）の志望就職企業をみると、当該学生のおよそ6割が中堅・中小企業への就職を視野に入れていると言われています。この傾向は、知名度とブランド力を保持する大手からの内定取り付けが難しいという理由よりも、中堅・中小企業が持つ潜在的なポテンシャル（可能性）や特定職種によるシェア率（例えば、世界的にもシェア率が高い企業など）の高さといった、企業本来のあり方に着目していることによるものと考えられているようです。したがって、2012年3月卒業見込み者による中堅・中小企業への就職活動は前年よりも活発になると考えられます。

現在、就職活動を行っているJAAC生や、これから就職活動を始めるJAAC生におかれては、より高い確率で内定を取り付けるために最も重要なこととして、早い段階から志望企業を徹底的に研究し、いくつかの志望企業を選別した上で、的を絞った形で一貫した就職活動を行うことだと思います。その際に、先にも申し上げたように、求職者である皆さんと、求人側である企業との間のミスマッチを防ぐためにも、中堅・中小企業も視野に入れながら企業研究を行い、普段から志望企業の採用状況の変動にも注意を払うことが大切です。今までの傾向から、海外大学卒業者の就職率は比較的に良好と言われてきましたが、昨年から、いわゆる「就職浪人」の数も増える傾向にあり、全体的には求職者が増えることになるわけですから、今後の就職戦線はより厳しいものとなるでしょう。さらに、先の震災の影響による企業の営業規模縮小や、リーマンショック以来続いている景気と経済の低迷によるところの採用人員縮小などから、2012年4月および2013年4月入社を予定している学生の就職活動はより厳しいものになると予想されます。今後の就職活動のあり方等につきましては、次号で引き続き皆さんと一緒に考えてまいりたいと思います。（カリフォルニア事務局：照井）

Let me remind you<sup>\*\*\*</sup>

★JAAC生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

◆就職活動をするJAAC生の皆さんへ：6月に東京ビッグサイトにおいて東京サマーキャリアフォーラムが開催されます。夏休みに帰省される方は是非この機会を有効に利用してください。詳しくは下記のURLから、<http://www.careerforum.net/event/tks/> をご参照ください。また、大学卒業後にアメリカの大学院に進学される方は、海外大学院合格者ジョブフェア2011が5月に東京で開催されます。詳しくは以下のURLから、<http://www.axiom.co.jp/event/jf110528/index.html> をご参照ください。その他、インターネット上では海外大学卒業生（見込み者）を対象としたジョブフェア等の情報が掲載されると思われますので、随時、各自でインターネットでの検索を行ってください。

●JAAC本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ©カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)